



杉谷ひろば

杉谷さんとともにまちを創る会
2019年 2月 5日発行

2月号 向日市上植野町西小路3-4
No. 96 杉谷ひろば(連絡先は頁下)

市民参加でまちを変えよう！ ホームページ：<http://sugi.pupu.jp/>

辺野古の埋立を問う2/24沖縄県民投票 沖縄だけの問題じゃない！

救護施設を
視察(3面)



杉谷伸夫・64才
向日市議会議員・無所属
上植野町イトピア在住

昨年12月14日安倍政権は、沖縄県辺野古の海に新たな米軍基地建設のための埋立土砂の投入を開始しました。これに対し沖縄県は、改めて明確な民意を示そうと「辺野古米軍基地建設のための埋立の賛否を問う県民投票」を行うことを決めました。政権側の圧力・横やりがあったものの、「賛成」「反対」に「どちらでもない」を加えた3択方式で、全県民が参加する県民投票が2月14日告示-24日投開票で実施されます。県民投票で示される沖縄県民の民意は極めて重いものです。

この沖縄県民投票に連帯する市民投票が、本土各地でも呼びかけられています。辺野古の新基地問題を沖縄だけでなく、日本国民みんなの問題として受け止めようというものです。私もこの趣旨に賛同し、市民投票実行委員会・京都が呼びかける市民投票を向日市でも取り組みます。

また私は2月1日~3日まで沖縄を訪問し、辺野古ゲート前の県民行動に参加し、辺野古現地と県民投票を前にした沖縄の状況を視察してきました(2面参照)。

沖縄県民投票は、2月14日告示-24日投票。全国市民投票も同様です。皆さんもぜひ一緒に考え、参加いただけたらと思います。(詳細：2面) (2月4日・杉谷伸夫)

救護施設問題に向日市行政は関わるべきだ

上植野町東端に隣接する京都市伏見区羽束師に建設が予定されている京都市の救護施設の第2回住民説明会が、1月13日に第5向陽小学校で開かれ、市民500人以上が参加しました。多くの市民は、救護施設自体には理解しつつも、疑念をもっています。疑念の1つは、この施設がほぼ向日市と言える場所に建設されることです。施設ができれば、その後の地域との間の課題に京都市は責任を持てるのか、向日市に丸投げされるのではないかということです。この救護施設の問題について向日市行政は「何の権限も無い」と傍観していますが、向日市も責任をもってこの問題に関わる姿勢が絶対に必要だと私は思います。(杉谷伸夫)

取り組みの予定

★ 2/9(土) 10時~12時・寺戸公民館

市民参加でまちを創る会例会

- ① 救護施設の視察報告、意見交流
- ② 2/1~3 沖縄・辺野古訪問の報告

★ 「辺野古米軍基地建設のための埋立ての賛否を問う県民投票」に連帯する市民投票

- 2/14(木) 沖縄県民投票告示
市民投票・期日前投票スタート
 - 2/24(日) 沖縄県民投票投票日
市民投票・投票日(詳細2面)
- 向日市：10時~17時・JR向日町駅前

連絡先

ご相談はまずお電話を！ TEL 090-8384-5984(携帯) FAX 075-921-4101
メール peace@fa2.so-net.ne.jp ホームページ <http://sugi.pupu.jp/>



2/1～3 沖縄・辺野古現地を訪問

何兆円つぎ込んでも完成のメド無し

2月1日～3日沖縄に行き、政府が米軍新基地建設工事を強行している名護市辺野古を訪問してきました。辺野古の海の埋め立て現場は米軍基地内にあるため見ることはできませんが、沖合に埋め立て用土砂を運ぶ輸送船が停泊している不気味な姿が辺野古漁港から見えました。

辺野古ゲート前座り込みに参加

2月2日朝は米軍キャンプシュワブ・ゲート前で工事用資機材の搬入に抗議する座り込みに参加しました。県民集会では、辺野古の埋め立ての実態について報告されました。昨年12月14日から辺野古の海に土砂投入がされていますが、実は基地建設のめどは全く立っていません。本格的な埋め立ては水深の深い大浦湾側ですが、その3分の1が「マヨネーズ状」と言われる超軟弱地盤であり、そのことを隠し続けてきた政府も公式に認めました。対策として6万本もの砂杭を打ち込む地盤改良工事が必要で、これだけで10年程の工事期間の延長が必要になるだろうといま



辺野古ゲート前で抗議の座り込み

す。設計変更も環境

影響調査も必要ですが、まったくめどがたっていません。工事費用も沖縄県の試算では、当初の政府発表より1ケタ多い2兆5500億円以上になります。向日市の年間予算の150年分です。国民の税金を湯水のようにつぎ込んで、アメリカのための軍事施設を造ってあげるのです。こんなバカげた国は世界中どこにもありません。

全市町村参加実現したのは市民の力

ゲート前の県民集会では、「辺野古米軍新基地建設のための埋め立ての賛否を問う県民投票」が、

県内全市町村が参加して実現することになった経緯について、県内各地から報告がありました。安倍政権の圧力で、県内の5つの市長が県条例に反して県民投票の実施拒否を表明したことに対し、多くの市民が激しく抗議しました。市役所には連日数百数千の抗議



投票は「辺野古埋立て」反対に○を

電話が殺到したそうです。「私たちの投票権を奪うな」という市民のものすごい声が県議会を動かし、5市の市長を一転して県民投票参加表明へと突き動かしたのだと知りました。（杉谷伸夫）

沖縄県民投票に連帯する市民投票

投票日：2月24日(日) 2/14～事前投票

沖縄県民投票とは？

沖縄県民投票条例に基づき、辺野古米軍基地建設のための埋立についての賛否を問うものです。2月14日告示～2月24日投票の日程で沖縄全県で実施されます。

市民投票とは？

沖縄県民投票と同じ内容の投票を、本土各地で実施しようという市民の自主的な取り組みです。

投票方法

辺野古米軍基地建設のための埋立について「賛成」「反対」「どちらでもない」のいずれかに○を記

入します。沖縄県民投票と異なり市民投票は選挙権がなくても誰でもできます。

投票場所 京都では下欄の場所で行われます。

事前投票 2月14日以降可能です。投票用紙を希望の方は、ご連絡ください。**協力者募集！**

★問合せ・連絡先：090-8384-5984（杉谷）

投京 四條河原町交差点
票都 JR向日町駅前
所の 近鉄高の原駅前

投票時間は、
2月24日(日)
9時～17時

救護施設を視察

京都市中央保護所 と 救護施設「千里寮」の視察報告

京都市と向日市の市境に計画されている救護施設についての京都市と事業者の説明会では、残念ながら向日市民の不信は払拭されませんでした。京都市と事業者には、誠実な対応を繰り返し求めます。その一方で救護施設について、私たちもその実像を知ることが必要です。今回の事業者（社会福祉法人みなと寮）が吹田市で運営している「千里寮」と、新たな救護施設に移行される予定の「京都市中央保護所」を視察してきたので報告します。参考にして下さい。（杉谷伸夫）

時代遅れの「中央保護所」—建替は必須

京都市中央保護所は、東本願寺の北側に隣接した3階建ての建物にあり、複数の福祉施設と同居していました。建物の入口を入ると1階がデイサービスセンター、2階は老人福祉センターで、多くの高齢者の皆さんが利用されていました。

1階正面奥の扉から向こうが中央保護所です。居室は6人部屋、12人部屋などの相部屋。狭くてベッドがあるだけで、寝る以外何もできそうにありません。入居者は、事務室で届けを書いて外出します。入る時はタバコ、ライター等を事務所に預けます。

休憩室にいた人は、タクシー運転手を失職し求職中の人でした。高齢でなかなか仕事が見つからないとのこと。

古い施設でエレベーターが無く、身体障がい者も女性も受け入れ対応できないそうです。施設が前時代的であり入居者の人権の面でも社会の需要に合っていない点でも、建替は必要だと思いました。



複数の福祉施設が同居する京都市中央保護所

救護施設「千里寮」—ここがモデル

阪急「山田」駅から北へ徒歩数分、周りは病院や

マンション、北側は一戸建ての高級住宅街の環境です。中央保護所とは全く違ってゆったりとし、老人保健施設のような感じでした。居室は4人部屋が標準で、普通の病院の相部屋のような感じです。3階建てで各階にスタッフ詰め所があり入居者の服薬管理・指導をしています。入居者は外出簿に記入して外出できますが、一日中施設内で過ごす方が多いそうです。

ここでの日常生活は、入居者が地域生活に復帰できるように一人一人の支援計画を作り、服薬管理、金銭管理の習慣づくりやアルコール依存からの脱却、清掃や簡単な作業など、その人に合った訓練をしています。作業室では10人ほどの方が作業台に並んで内職作業をしていました。平均在寮年数は3年8ヶ月。地域での自立生活に移行する人、高齢により養護老人ホームへ移る人、介護度が重くなり特養に移行する人など様々とのこと。

この千里寮は吹田市の中にありながら、大阪市の施設だそうです。国の制度に基づく施設なので入居者に制限はないとのこと。施設運営に関しては、地元連合自治協議会と大阪市・吹田市・みなと寮で連絡協議会を開催しているそうです。

最後に、みなと寮の施設関係者と今回の施設建設問題を巡って意見交換しました。私からは、救護施設に対する理解以前に、向日市民がないがしろにされていることに対する住民の憤りがあることを伝え、今後の誠実な対応を求めました。

コミュニティ・バス

既存路線バス減便し 南ルート運行へ（19年度）

2月4日、向日市地域公共交通会議でコミバス南ルートについて、阪急バス77, 78系統を減便し、平日昼間はコミバスルートを実行する方針が確認

されました。今後京都市、長岡京市との協議を経て、運行は来年度になります。

阪急77, 78系統廃止も

一方向向日市と長岡京を結ぶ阪急バス77, 78系統は利用が少なく赤字を理由に、1年後に収支が確保できなければ廃止する方針が阪急バスから示されました。そうすると向日市と長岡京市を結ぶバスが更に減ることになり、大きな問題です。

これからの日本は どうなるのだろう

安野 洋子

年末は、平成が終わるということで、この30年を振り返ることが花盛りだった。元号を使わない私にとっては、1989年から2018年ということになり、年齢で言えば50歳から80歳、いろいろ変化のある30年だった。子ども達は、娘は結婚し、息子は就職して出て行ったし、両親を見送り、2017年には夫も肺炎であっけなく逝ってしまった。

でも私自身はYWCAに参加し、福祉の勉強をしたし、小田実の読書会でもたくさん学習させてもらったと思っている。旅も沢山した。ヨーロッパ、アメリカだけでなく、突端の南アフリカ、南米の先パタゴニアまで行ったことなど、いろいろ世界を知ることができた。

1989年、ヨーロッパでは東西の壁が無くなり、1991年ソ連が消滅し、ロシアになった。信じられ

ない動きの中で、世界はいい方向に流れていくように思ったものだ。

日本ではバブルの頂点1989年には、ニューヨークのロックフェラービルを買収したりしたのだ。1991年バブル崩壊で、銀行は4つに合併され、学生の就職氷河期の時代の到来となった。2001年新自由主義の小泉政権が始まると、すべて中流といわれた日本社会は、貧富の差がある格差社会になり始めたようだ。

しかしこの30年、ITの進歩は目を見張るものがある。ワープロはパソコンに、携帯はスマホに変化した。新聞もテレビも見ないでSNS、ラインなどネット社会のみで生きる若者が出現してきた。ロボットの進歩は、AIという人間以上の高い知能を持つものをも生み出しつつある。現在の子どもが成人する頃には、ロボットとの競合で職業選択も、生きていくことも難しくなるのだろう。世界では宇宙を取り合う戦争も始まっているし、それぞれの国は自分の国の利益のみを考える自国中心主義になり、築きあげてきた民主主義は危機になりつつあるようだ。

81歳の老婆になる私は、世界の片隅でじっとこの世界の流れを見てやろうと思うのみである。

シリーズ ごみ問題を考える⑦

市は、透明袋の指定を検討中 古紙集団回収への助成も検討へ

向日市はごみの収集・処分に毎年10億円以上の予算を使っています。ごみの減量は環境を保護すると同時に、無駄な財政支出を減らせます。

2年前の議会での私の指摘を契機に、向日市でも市民代表も参加して「廃棄物減量等推進審議会」が約10年ぶりに設置され、ごみ減量推進のための方策が検討されています。私が強く提案してきた「古紙等の集団回収」も検討課題に入っています。

この審議会を傍聴していますが、今最も検討が進んでいるのは、不適正なごみ出しを改善するための「ごみ袋の指定」の検討です。市の可燃ごみ袋の展開検査では、不適正ごみが約3割もありました。その大半が古紙類や容器包装プラスチックなどの資源ごみでした。そこでごみ袋を中身の見える透明袋にすることが検討されています。京都

市のような「有料の指定袋」ではなく、まずは透明袋にしようという方向でした。

その他、古紙の集団回収については、自治体や子ども会などの住民団体が回収した古紙を回収業者に引き渡す際の手数料に加え、向日市からも古紙等回収の協力に対する助成金を交付する制度で、京都府下で実施していないのは、向日市・大山崎町・笠置町だけです。資源の有効回収に役立つ他、自治会活動の活性化も期待されます。これについては、今後推進に伴う課題を解決して、検討を進めていく考えです。

今年5月の次回審議会に市長への答申原案が出されるようです。
★ごみ減量に対する市民の皆さまのご意見・ご提案をお聞かせください。

